

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和4年度 第3回)

- 1 日時 令和4年11月29日(火) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 和泉雅幸委員、守屋佐千子委員、中野隆則委員、本多正樹委員  
和田修二(校長)、住田晶子(教頭)、石川雄一郎(教務)

4 会議の内容 (進行:教務)

○開会

○これまで(9月~11月)の学校の様子について(説明:校長)

- ・一大イベントの運動会は無事に終了した。前日は雨だったが、当日の朝、パパボランティアの方が会場設営のお手伝いをしてくれた。昨年度と大きく違い、1~6年生まで一堂に会して行った。保護者の方にも全校の様子を見てほしかった。感染症対策で、体育館や屋上の開放等も行った。感染は広がらなかった。
- ・5年生の稲刈りがあった。学校応援団、地域、保護者の方にご協力いただいた。
- ・海老名市小学校連合運動会が3年ぶりに開催された。市内の小学6年生約1,200名が海老名運動公園陸上競技場に集まった。
- ・キラキラタイムで全校縄跳び運動を実施した。
- ・神奈川県総合防災センターに3年生が体験学習に行った。体験エリアがあって、震度7の揺れ等を体験していた。
- ・喫煙防止教室を3年生児童対象に実施した。講師は学校薬剤師。
- ・スマホ・ケータイ安全教室を実施する予定。保護者も参加でき、家庭教育学級として位置づけている。

【協議】

中野:子どもたちにとっては、米がついている稲を自分の手で鎌を使って収穫するいい体験になった。下今泉の高柳さんは「いなご探し」を担当し、そちらも子どもたちが夢中になっていた。

これに続いて、12月13日にしめ縄づくりがある。学校応援団は学校でこんな取組をしているのだと、地域の方にも見せてあげたい。

和泉:防災センターはバブルの時期に建設された充実した施設。県としても利用実績が欲しいので、よい取組だ。

守屋:学校応援団という組織を分かりやすく広く周知したい。地域の方は地域として、ボランティアの方はボランティアとして、自治会の方は自治会として学校の活動をお手伝いしている。学校応援団の定義を明確にしたい。

本多:保護者の中には学校応援団の存在自体を知らない方もいる。学校応援団をPRす

る機会や方法があるといい。

中野：青健連でも、学校応援団のことがよく分かっていない。学校応援団が行っている事業を広めたい。

和泉：学校応援団の組織を整理して、学校応援団の組織図を周知するとよい。

守屋：その組織図の中に協力団体を明記にすればいい。今までも、自治会、協力者等、学校に協力してきた。

校長：貴重なご意見ありがとうございます。

本多：運動会は来年も今年の実施方法で行うのか。

校長：コロナの状況によるが、今年のスタイルを基本としたい。教員の反省を受けて、次年度について検討していく。来年度の児童数は900人を超える。実施方法を工夫しながらも、学校全体の一大イベントにしたい。

本多：児童数が急増する。保護者は自分の子どもの学年でなくても、他学年の演技も見たい。6年生のソーラン節の演技など感動した。徒競走は2か所で実施して問題なかった。

校長：ゴールを2か所に分けたため、ゴール付近の混雑が緩和できた。

石川：PTAの方にも、運営面でいろいろとご協力いただいた。

本多：今年はパパボラの人数が増えてよかった。

石川：直近の行事で11月24日にEnglishDayがあった。ALT（外国人講師）15名が本校に来て、終日子どもたちと関わった。ALTの国籍は、メキシコ、フィリピン、アメリカ、コスタリカ、オーストラリア等様々。

#### ○新型コロナウイルス感染状況について（説明：教頭）

- ・2学期始めは夏休み中の第7波の余波があり、感染者は複数いた。その後落ち着いて、9月中旬～10月は、ほとんど感染者はいなかった。
- ・11月7日、突然感染者が増え、次の日から1クラス学級閉鎖。他のクラスにも感染者が増えた。翌週、学級閉鎖したクラスは、欠席者が減り、学級閉鎖の効果があった。
- ・11月14日～19日今フェスのあった週は欠席が増えた。感染者が多くなり、また別のクラスが学級閉鎖になった。その週は感染者、濃厚接触者、体調不良者の数が教員を含め増えた。
- ・先週から徐々に欠席は減ってきてはいるが、第8波が心配される所。今小の場合は、月曜日に爆発的に欠席が増える傾向にある。

#### 【協議】

和泉：県内の状況は感染者が45,000名程。社会活動が活発になると感染者も増えてくる。先週比で500～600人増えている。子どももワクチンを打っているのか。

校長：学校では、児童のワクチンの接種状況について把握していない。

和泉：学級閉鎖により感染が収まったのであれば、素晴らしい判断だった。

校長：第8波を見据えて、この機に「オンライン教室配信」を始めることとしました。

オンラインで家庭と教室をつなげて、教室の授業を配信する。配信したからといって教室にいるような教育的効果は期待できないかもしれない。学校を休んでいる児童のうち、学習できる状況の希望する児童に対して、学校で学習している様子を伝える。

本多：「オンライン教室配信」はコロナ限定か？

校長：原則コロナ関係での欠席している児童とする。

守屋：小中学校は義務教育なので、教育を受ける権利を考えると配信してもいいかと思う。学校に行けないことで不安になっている。不安解消の助けになればよい。

石川：実際に、私の外国語の授業の配信をしたが、子どもがいい顔をしていた。

本多：コロナ関係の子どもたちだけではなく、長期入院の子どもも対象にしてほしい。

校長：3年生以上が学級閉鎖等、クラス全員が学校に登校できないときは、教室からオンライン授業を配信している。

#### ○地域とともにある学校について（説明：校長）

- ・今フェスは、コロナの状況により残念ながら中止の判断をした。
- ・1クラスでも学級閉鎖が出たら実施できない。
- ・ご協力いただく予定だった団体には、準備をしていたので申し訳ない。
- ・1時間目は授業参観だったので、1月に学校公開日を設定したい。
- ・教職員有志による「先生コンサート」は、12月のロング昼休みに実施して、子どもたちに披露したい。

#### 【協議】

和泉：プロダンサーSaoriは海老名ダンスにいる？

校長：いる。この方は今小の卒業生。来年もお願いする予定。

守屋：今回、今フェスで使う予定だった民生委員のものはコミセン祭りで使用した。

中野：青健連の工作ブースは12月17日のいきいきシンポジウムで行う。

和泉：産総研の理科の実験ブースは夏のえびなっ子スクールで行った。

校長：来年こそは、学校と地域がつながるシンボリックな行事として実施したい。

#### ○登校班アンケートの結果について（説明：教務）

- ・令和5年度はPTAの形を新しくしていく。
- ・登校班はPTAから切り離し、「登校班見守り隊」として組織する予定。
- ・12月13日に第1回の令和5年度のメンバーで集まり「登校見守り隊」について相談をしていく。

#### 【質疑】

守屋：役員は各地区から出しているのか。

石川：PTA組織を改編するので、地域の児童数より役員数を算出した。

守屋：役員数は減ったのか？

本多：ほとんど今年と変わらない。

和泉：どのようにアンケートをとったのか。

石川：Google フォームで回答してもらった。世帯数は 690 くらい。

守屋：高学年の保護者は自由登校がよいと言っている。

和泉：外国につながるのある家庭は、保護者が車で送迎している場面を見かける。

校長：低学年児童が急増している実態がある。登校班によっては、高学年児童が不在の場合もある。様々な意見を拝聴しながら調整していく。

#### ○学校評価アンケートについて（説明：校長）

- ・ Google フォームで回答する形ですでに実施済。
- ・ 現在集計中なので、次回の学校運営協議会で結果を示す。

#### ○支援を要する児童について（説明：教頭）

- ・ 長欠児童の理由は、学習、家庭、病気（起立性調節障害、過敏性胃腸炎）等
- ・ スクールカウンセラーや市の相談機関、病院等とつながっている。
- ・ 今年度、今泉小学校にリソースルームが開設した。
- ・ リソースルームとは、教室に登校しづらい児童が、本人のペースに合わせて学習できる教室。補助指導の先生や今年度研究のため本校に勤務している、えびな支援学校の先生や大学生ボランティア等が関わっている。
- ・ 補助指導として、補助指導員が T.T として教室に入ってもらい、支援を受けている児童や、教室から取り出して補助指導員に個別指導を受けている児童がいる。
- ・ 通級指導として、「ことばの教室」（ことばの指導を専門的に行う教室）と、「そだちの教室」（集団のルールとかマナーとか、対人関係やコミュニケーション等について学ぶ教室）がある。放課後に、「ことばの教室」は柏ヶ谷小、「そだちの教室」は上星小に保護者が連れて行って指導を受けている児童もいる。

#### 【質疑】

和泉：きめ細かく指導している印象。これだけ丁寧に指導するために、海老名市は予算を付けている。

守屋：海老名市は不登校対策もしている。

和泉：えびな支援学校の先生とは？

校長：令和 5 年度までの研究のため今泉小で勤務していただいている。その間にリソースルームをはじめ、インクルーシブ教育の校内体制を確立したい。

守屋：通級指導については保護者と担任の先生との連携が必要になる。

校長：学校では、不登校をはじめとして支援を要する児童が増えている。先生方は子どもたちのために頑張るものの、学校の教職員だけでは対応が難しい面があるので、行政や民間施設等と連携して、子どもたちの学習を保障したい。

## 5. 閉会

<次回開催日 2月21日（火）10:00～>